



昭
君



特別
子12
3643
16(14)



照君

早作

是ハ唐土カウシマノ里ニ住居仕ル者ナリ



ハ梅ヲ汝可ヨ白桃王母ト申ス娘

乃ハウニ大ハ其身ヲ持テ名ヲ照君ト

名付所門ヨリナルハ世寵ニシテあり

一ニ交ハシラシ細アリテ胡也ウリナル

ハ。夫婦人ノ歎ニウリ。其考アリシハ



のさうさう
 二五一六
 教エうエぬエたエのエ才エ隆エよエ立エよエ事エのエやエみ
 ちエのエぬエきエうエのエぬエ 足エのエうエのエ
 ちエうエほエのエ事エのエ位エ女エもエうエづエくエさエうエのエほエを
 申エのエ夫エ婦エのエ老エうエ也エ 初エ夜エ又エ賤エま
 身エのエちエもエ美エ名エとエあエらエんエ息エ女エのエちエ
 昭エ君エとエうエ事エとエ名エ付エつエくエ容エ顔エ入エりエ賜エき
 元。

ちエのエわエらエきエのエ帝エ都エよエらエれエくエたエ明エ妃エと
 其エらエのエあエらエんエことエ天子エよエまエらエんエお
 けエまエはエ 初エ夜エ又エ賤エまエのエちエ
 初エ夜エ又エ賤エまエのエ宿エ縁エなエのエ事エをエうエらエぬエ故
 中エしエ然エ入エりエ中エよエえエらエんエ物エのエ胡エ國エの
 民エよエらエんエはエきエ漢エ宮エ万エ里エのエおエかエつエて
 べエ初エ夜エ又エ賤エまエのエ極エのエをエ思エはエるエ行エきエしエんエ

シテト
はきた信ちの官人とも松行志道乃
對めよ。結管の教と奏うしつ。馬とよ
琵琶をひく事もし時うわとばぬを
昼福下よりきき面影を今社思の志
新上しきウ。彼昭君乃まひしとさうづく
縁の多よ匂し。も。き。ま。や。つ。る。覺。り。て。柳
忠思の心とさく柳のよ。何結九よき心

よとして木陰の塵をよぬりむしく
いたく庭を清ゆしと。初交の帯をたつ
まへツレなり。空や心を昔乃ま。老のす
もはくふれ。けとらぬ。と。八思くとも。風
むよ深の袖乃むたよとさう。う。ね。思。白
も。子。ゆ。へ。ま。利。き。尋。常。乃。賤
の男と。入。の。や。ら。る。ん。愧。し。や。貝

照君

... 上のこよ入あひら ...
 ... 満つちろくあ ...
 ... ちおろあ ... 袖 ... との思へ ...
 ... ちを シテ 引らためあを ...
 ... 上へ ... 下へ ... 落ぼるつ ... 陰あわあ ... 塵と ...
 ... 下月 ... 物 ... 移る木陰あわ落 ...
 ... 葉のつ ... ちまわあ ... 塵 ...
 ... 上へ ... 下へ ... ちのち舞 ウ ... 冥 ウ ...

... 心 ... 塵 ... び ... 袖 ...
 ... 乃 ... 水 ...
 ... 下へ ... 袖 ...
 ... 乃 ... 月 ... 影 ...
 ... 下へ ... 影 ...
 ... 乃 ... 影 ...
 ... 乃 ... 影 ...

内子たかくやうめ海よりニテ翔る所入るを
早らも果うしまうそふニテ 此あえはあへ
早めかよふゆ。梅を昭君めしりさる中
 寄つてゆニテ 国さうひ方程うゆ
早又申す月ぬび柳乃木のらと立らる
 けく清め候へ行とやたるはるやうそ
ニテ 昭君胡國へうつさる時い柳さう玉

づれ胡國あてましくあはれびやまも
下せしうねもねと申つる御幣ら今もやう
早えの枝く作 空くは歎きむあへ
 梅を昭君さ行し胡国へはうつらま
カキテ上たまひ作う 梅を昭君胡國よ
日うのほまうその古へと尋ねるよ天下
サレを治めを免あると 慈れい胡國の

軍ころうしてきいしあつて
^{下日}たふまよ和睦してまじりあつて
死しむらく義人さ一人つていひは
約束のあふみ 各 漢王の宮旨
よふ三千人の寵愛の厚きとて
方もあるくはあまの好色とて
茶を質すの障子も似き繪より目くを

あつて中よたむの根あつて
えらひて胡王乃為よつて天下の
運をさつてむと倫言をいひて
うらむあまをさつていひ
繪うけ多人をさつていひ
續つて御約束のあふみ 上 漢王の
まじりあつていひ

田舎

上

柳髮風よきまやうよ。桃紅露を食し
 て又折つるよななる。 位下 照君よ
 ちよひさるん美大めく帝れわゆえ
 ぎういあうとよきあめら政屋と
 だうらうけくさよ。 位下 登園よ
 面影のあましらや。 位下 ちやう
 ちよひの電電をぬく。 位下 と申さる

君よよ私乃とよまも。 位下 ちよひ
 ちちちくくして照君を御國よ。 位下
 影のほらる。 位下 桃也とらひ人仙
 をと契う清うらう。 位下 仙女さる
 ちよひは桃の花と鏡よ。 位下 ちよひ
 ちよひはなをえまゆとあり。 位下 洗柳も
 照君の姿へはらさ給へ鏡よ。 位下

影さへ心
影さへ心
ツレ
影さへ心
ツレ
影さへ心
ツレ

まゝの鏡のたゞ
まゝの鏡のたゞ
ツレ
まゝの鏡のたゞ
ツレ

持まの鏡
持まの鏡
ツレ
持まの鏡
ツレ

しき
しき
ツレ
しき
ツレ
しき
ツレ

なまの鏡
なまの鏡
ツレ
なまの鏡
ツレ
なまの鏡
ツレ

照君上
照君上
ツレ
照君上
ツレ
照君上
ツレ

四

下七九

六

子影さうつ舞下七九鏡子氣練染うと鏡六

立寄能くこれ上七九此れ終ひすまゐたう

や上あさうとく髪上もらう上ウ上く上い上

離く上ま上よ上ら上い上ゆ上ひ上ら上よ上た上ま上

ね上ハ上い上ね上葛上う上く上サ上も上む上は上ま上耳上子上

ま上ら上う上ら上さ上ら上方上を上れ上鬼上邦上と上ん上

際上よ上海上も上ら上う上鏡上子上寄上そ上ひ上刻上く上

も上若上て上も上鬼上と上ら上ら上わ上も上人上と上ん上い上

い上ま上の上う上ら上ら上あ上ら上種上あ上ら上ら上ら上う上ら上わ上い上

今上ら上教上つ上て上ら上面上自上あ上ら上と上く上立上う上ら上れ上

あ上ら上眼上を上ら上ま上ま上と上と上く上柳上の上あ上ら上ま上ら上と上

あ上ら上罪上を上あ上ら上ま上ら上次上志上や上ら上わ上ら上ま上ら上わ上ら上

く上れ上ら上う上も上ら上ら上花上と上み上き上く上ら上ら上ら上日上

う上ら上ら上ら上ら上あ上ら上あ上ら上あ上ら上あ上ら上散上を上し上ほ上の上う上ら上

